

首里城公園『黄金御殿、寄満、近習詰所、奥書院』オープン!

国営沖縄記念公園首里城地区では、『黄金御殿・寄満・近習詰所、奥書院』の復元整備工事を完了し、平成26年1月24日（金）に関係者参列の下、オープンいたしました。



関係者によるテープカット平成25年度国王・王妃も華を添えた



復元建物等検討委員を代表して沖縄国際大学の田名教授の挨拶



小平田開発建設部長による式辞

首里城で復元整備される施設は、主に学識経験者により構成される復元建物等検討委員会の審議に諮った上で設計し、整備を進めています。今回新しく復元整備された施設は以下のとおりです。

○黄金御殿：王や王妃の居室、寝室があり、「御内原」の中心となる建

物。内部に美術工芸品等の展示が可能な特別展示室等を整備しています。

○寄満：国王やその家族の毎日の食事を調理する建物。イベント等に使用可能な多目的室等を整備しています。

○近習詰所：国王への取次ぎを行う近習（きんじゅう）が控えています。休憩・動画鑑賞ができるほか、南殿と黄金御殿を結ぶ連絡通路として整備し、書院から正殿まで、往時の国王の動線であった2階レベルでの移動が可能になりました。

○奥書院：国王が執務の間に休息した建物。休憩ができる「くつろぎの空間」として整備しています。



古写真等をもとに内部も木造で復元された奥書院

今回オープンした黄金御殿等は、正殿以外では「御内原（おうちばら）」における初めて供用された施設となりました（注：正殿の2階などは御内原に含まれると考えられています）。御内原とは、正殿の裏側に当たる一帯で、国王とその家族及びそれらに仕える100人ほどいたといわれる女官たちの生活や儀礼の領域となっていたところです。今回の黄金御殿等の整備により、男性が中心となった正殿前御庭などの「行政空間」、神女たちを中心とした京の内などの「祭祀空間」に加えて、王家や女官たちによる「生活・儀礼空間」である御内原の一部が復元されたこととなります。

1月25日（土）、26日（日）には新規施設開館を記念して、往時、首里城で行われていた祭祀行事の一つである「百人御物



首里森御嶽で祈願する神女たち

参（ももそおもものまいり）」の一部を再現するイベントを開催しました。これは神女たちが首里城及び周辺の御嶽を参りし、国王の長寿や子孫繁栄、航海安全、五穀豊穰などを祈願する行事です。厳かな雰囲気で行われ、「琉球独自の祭祀行事を鑑賞できた。」と来園者からも好評でした。

今後も国営沖縄記念公園事務所では、残る施設の復元整備を進め、より深みのある歴史・文化を演出するとともに、利用者サービスの向上等、公園全体の魅力を高めるよう努力していきます。

（おまけ）  
今回、黄金御殿の1階に左掖門（さえきもん。左の脇門という意味です。）という門が整備されました。この門は建物下にあつて昼間でも薄暗かったことから「クラシン御門（うじょう）」と呼ばれたこともあったようです。小説「テンペスト」（フィクション）で主人公の真鶴（男名：寧温）が女から男へ変身した場所、秘密通路のようになっています。正殿前の御庭から見学可能ですので是非探してみてください。